



【担当】消防本部消防防災課

町民の皆さまをはじめ、たくさんの方々に、訓練の実施にむけて多大な尽力をいただいている中で、中止となり、大変申し訳ございませんが、ご理解いただけますようお願い申し上げます。

令和3年度全国統一防火標語

「おうち時間 家族で点検 火の始末」

愛媛県総合防災訓練の

中止について

8月の広報折込により9月4日(土)の愛媛県総合防災訓練の開催案内をしておりましたが、県内では、8月以降に新型コロナウイルス感染症の陽性者確認が増加し、感染対策期となり、感染回避行動の徹底が求められる状況となりました。

そのため、訓練実施による感染リスクを考慮し、今年度の愛媛県総合防災訓練および上島町総合防災訓練を中止することとしました。

消防署内救助技術発表会

令和3年8月に松山市で開催を予定していた第49回消防救助技術四国地区指導会が、新型コロナウイルスの感染状況により中止となったため、出場が決定していた「ロープブリッジ渡過」「ほふく救出」の2種目について消防署内で発表会を行い、2種目共に標準設定タイムを上回る記録となりました。

また、ほふく救出選手の松本実穂隊員は、この種目では初めての女性選手として四国大会へ向けて訓練を重ねていました。

今後も救助技術や体力の向上を図るとともに、迅速かつ安全確実な現場活動が行えるよう訓練を重ねてまいります。



往路：セーラー渡過

復路：モンキー渡過

【ロープブリッジ渡過：標準設定タイム 28秒】

隊員名	記録
加東 薫	24秒(減点なし)

令和3年7月出動件数

地区	弓削	生名	岩城	魚島	その他	合計	R3累計
火災	0	0	0	0	0	0	1
救急	18	8	7	2	0	35	236

(令和3年7月31日現在)

上島町消防署・消防本部 ☎77-4118



救助技術を披露した隊員
左から 菅・松本・加東・石割隊員



空気呼吸器着装と確保ロープ
結着を行い煙道内へ進入する



8mの煙道内から要救助者を救出し、ゴールまで抱えて搬送する

【ほふく救出：標準設定タイム 62秒】

隊員名	記録
菅 貫太	52秒(減点なし)
松本 実穂	
石割 大貴	

秋冬作は気温が下がる時期に向かうため、キャベツやはくさい、大根などの収穫まで期間の長い野菜類では、気温が下がるまでに、ある程度生育させる必要があるので適期に種まきや植え付けをすることが重要です(表1参照)。植え付けが遅れると低温により生育がとまり、春を迎えるとすぐにトウ立ち(花が咲く)してしまいま

① 主要野菜の栽培作型

暑さも和らぎ秋冬野菜の種まきや植え付けをする時期を迎えました。最近では、残暑も厳しい年が多いですが、食卓に彩を添える自家用野菜に挑戦してみませんか。今月は、秋冬野菜の栽培ポイントを解説します。

色々な秋冬野菜の栽培に
挑戦しましょう。



しまなみ
農業だより

- (1) 主要野菜の栽培作型
- (2) 種まき・定植方法とその後の管理
- (3) 施肥管理

表1 主要な秋冬野菜の栽培作型

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
キャベツ	—	■	■	—	■	■		(冬) (春)	○××	×△	—	—
はくさい	—	■	■	—	—	—		(早生) (晩生)	○	—	—	—
ホウレンソウ	■	■	■	—	—	—			○	—	—	—
レタス	■	■	—	—	—	—			○	—	—	—
しゅんぎく(摘み)	—	—	—	—	—	—			○	—	—	—
大根	—	—	—	—	—	—			○	—	—	—
水菜	—	—	—	—	—	—			○	—	—	—
じゃがいも(秋)	—	—	—	—	—	—			○	—	—	—
極早生たまねぎ	—	—	—	—	—	—			○	—	—	—
晩生たまねぎ	—	—	—	—	—	—			○	—	—	—

植え付け間隔は、野菜の大きさ

② 種まき・定植方法とその後の管理

表2 主要な秋冬野菜の植え付け、施肥の基準

野菜の種類	植え付け間隔			肥料の施用量(kg/10m)		
	うね幅(cm)	株間(cm)	植え方(まき方)	苦土石灰	化成肥料	追 肥
キャベツ	65	35	苗移植	1	1.5	0.5 (2回)
はくさい	50	40	直まき、苗移植	1.5	1.5	1
ホウレンソウ	45	5	条まき	2	1	0.5
レタス	70	25	2条植え	1	1.5	1
大根	40	30	点まき	1	1	1
しゅんぎく(摘み)	30	10	条まき	1	1	0.5
水菜	30	10	条まき	1	1.5	0.5
たまねぎ	30	10	苗移植	1.5	1	1.5

により異なります(表2株間を参考)。土に直に種をまくホウレンソウやしゅんぎく、大根などは、発芽後に適度な間隔に間引きを行います。直まきの方法は、図1を参考に、葉物野菜では種を薄く「すじまき」、または畝上に「ばらまき」し、軽く土をかぶせます。また、大根やはくさいは、株間間隔に3粒程度、「点まき」にします。発芽後、葉と葉が触れ始めたら2回程度に分けて適正な株間に間引きを行い1本残します。間引き後は、株周りに土寄せを行い、株をまっすぐにします。特に根菜類(大根、ニンジン等)は、根の曲がり矯正できます。苗で定植するキャベツやレタスなどは、適正な株間間隔に植え付けます。

★しまなみ農業指導班岩城駐在所では、9月にカンキツほ場の公開セミナーを行います。ただし、新型コロナウイルスの感染状況により中止になる場合もあります。開催日時は、あらためてご連絡します。近所にお誘いあわせのうえご来場ください。

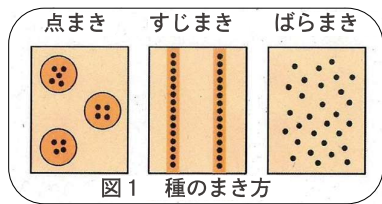


図1 種のまき方

③ 施肥管理

施肥は、植え付けの2週間前に苦土石灰と堆肥を10㎡当たり20kg程度施用し、よく耕します。その1週間後に元肥(肥料)を施用し、もう一度耕して地ならしをします。元肥は肥料成分のバランスの取れた配合肥料が適します(施肥量は表2を参照)。有機栽培にこだわれば、油かすや魚粉などを利用しますが、肥料成分が低いいため表の施肥量の約2倍量が必要となります。比較的、短期間で収穫できる葉物野菜は、植え付け前の肥料だけで生育できますが、キャベツやはくさい、たまねぎ等は、生育の中期頃に2回程度、株元に追肥、土寄せを行うと大きく育てることが出来ます。